

広報 ㊦
No.717
令和5年

いいいたて11



the most beautiful
villages
in japan

飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。



黄金色に輝く
イチョウの枝

目次 CONTENTS

- 02 話題「いいたて村文化祭」
- 04 特集「飯館村でつながる！」
- 16 空から百景「秋のはやま湖」
- 18 報告「令和5年度飯館村表彰式」
- 19 報告「住民懇談会」ほか
- 20 学びの広場「稲刈り体験」ほか
- 21 生涯学習「狼信仰を学ぶバスツアー」ほか
- 22 いいたて便り
- 24 話題のパレット
- 26 村からお知らせ
- 28 いいたてイノサル通信
- 29 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 30 いいたてDIARY／村民広報委員コラム
- 31 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 32 ほっとNEWS

全世代の力作が一堂に！

第40回 いいたて村文化祭

交流センター「ふれ愛館」で『第40回いいたて村文化祭』を開催しました。

乳児から高齢の方まで、幅広い年齢層から出品された多彩な力作が一堂に。「総合文化展」は、10月19日から25日まで展示を行いました。昨年を上回る810点の作品が集まり、さまざまな表現や手仕事を、多くの人が観

賞しました。同22日には、審査によって選ばれた11の団体と個人を表彰しました。

また22日は特別展示「飯館村の動植物」の展示解説が行われた他、子ども広場や飲食・物販・体験コーナーなどで、各団体が訪れた皆さんを歓迎しました。来場した人同士が再会のひとときを楽しむ様子も印象的でした。



エントランスホールで開会式と表彰式を開催。



特別展示「飯館村の動植物」
飯館村の動植物の貴重な写真・はく製などを展示。



10月22日、「いいたて村の道の駅までい館」で開催された『いいたて秋まつり』に、たくさんの家族が訪れていました。楽しそうな子ども達の表情を見ていると、周りの大人も幸せな気持ちになりますね。秋まつりについてはP25の記事をご覧ください。

村はイベントや取り組みを取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613までお知らせください。



総合文化展
10月19日～25日

10/22 同時開催 福祉チャリティー祭り



交流センターの研修室では、社会福祉協議会主催の『福祉チャリティー祭り』が開催されました。村内の福祉団体・社会奉仕団体などが活動報告やバザーを実施。子ども向けお楽しみコーナー、防災グッズの展示・防災食の試食コーナーなどもあり、にぎわいました。



屋外でも「ふるまい鍋」やカレーライスの提供、物販などが行われました。



いいたて村の道の駅までい館などをめぐるスタンプラリーも開催。



飯館村で

つながる!

あいの沢で、誰でも参加できる
デイキャンプイベントを開催!

佐藤雄紀さん

深沼慶さん

飯館村で新たな活動を始めた人達が、それぞれの道で歩みを進めながら、ゆるやかにつながりを深めています。よい影響を与え合い、つながることさらに楽しくなる、重なり合いから次のアイデアが生まれるような、ワクワクな関係性。そして、つながりから立ち上がるイベントやモノづくりも、魅力にあふれています。

きっとこれからも、飯館村に新たな彩りをもたらしてくれる、そんなつながりのいくつかをお伝えします。



心地よいワクワクが 伝わるデイキャンプ

10月14日、村民の森あいの沢のイベント広場で、スラー主催の「わくわくデイキャンプ」が開催されました。

「田舎レストランラカッセ」のオーナーシェフ、佐藤雄紀さん(二枚橋・須萱)はスラーの部長。副部長兼広報担当の深沼慶さん(川俣町)は、今年度から村役場に勤務しています。もう一人の副部長は、この日お



イベント広場は普段からキャンプのフリーサイトとして活用されています。今回の利用にあたっては「あいの沢管理棟」のスタッフが総出でバックアップしてくれたそう。当日は、持参したテントを張りゆったり参加した人も、たまたま通りかかって立ち寄った人も、このデイキャンプのやさしい雰囲気、心ゆくまで楽しんでいました。精肉店「肉のゆーとぴあ」から届いた飯館産黒毛和牛のフィレ肉を炭火で焼いて味わうバーベキューも大好評。広場の開放感も相まって、大人も子どもも、のびのびと休日を満喫しました。

仕事のため不在だったので、「工房マートル」(上飯樋)のろうそく作家、大槻美友さん。大槻さん企画のプチキャンドルすくい(左上の写真)は子ども達に大人気でした。この日のデイキャンプは、食事を持参して入場してもOKで、シェフ特製の焼きそば付きバーベキューを選ぶこともできる、自由度が高いスタイル。一緒にいることが心地よい距離感で、参加者同士が交流も楽しんでいました。

「活動はまだ始まったばかりですが、新たなつながりから、私達も予想していなかったワクワクな企画が動き始めています」と佐藤部長。飯館村で出会い、スラーでつながった仲間達と、技術を持ち寄り、アイデアを出し合い、やりたいことを自由に描けることそのものも、ワクワクですね。そんなスラーのワクワクが、みんなに伝わるデイキャンプでした。次のページでは、参加していた皆さんのことも紹介します。



Instagram



Slur(スラー)は、音と音をなめらかにつなぐ演奏記号。この夏発足した『Slur』は「人と人をつなぎ、新しいワクワクをつくる」活動を進めています。現在のメンバーは6事業者+4個人。仲間の個性や技術、アイデアを生かしてイベントの企画・運営を行っています。料理教室「COOKRING(クックリング)」を開催中。最新の企画はInstagramで!



スラー
Slur
10/14 DAY CAMP

Inizio

イニジオ

スラーのデイキャンプで、レザークラフトのワークショップ。



デイキャンプで素敵な革製品に出会いました

高橋一徳さん(深谷)は、福島市にレザークラフト(革工芸)の工房を構え、オーダーメイドを中心に、革製の小物やバッグ、靴などをつくっています。村内のイベントにも出店していて、この日はデイキャンプの会場でワークショップを行っていました。

かつての会社員時代に入院をした高橋さん。入院中はすることもないうからと友人が持つて来てくれたのがレザークラフトの道具でした。それがきっかけとなり、退院をしてから、革靴の工房で靴づくりを教わったり、独学で小物を製作し

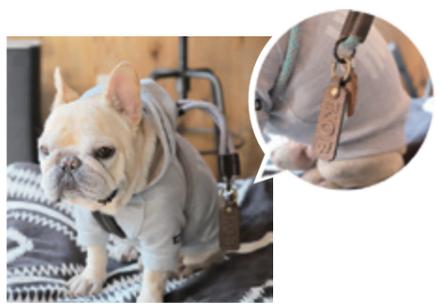


高橋一徳さん

たりするようになり、レザークラフトの道を歩き始めました。会社を退職し、平成30年に事業者登録。翌年から、工房での製作をスタートしました。

素材となる牛革はイタリア製が多いそう。しつくりくる手触りと表情豊かな色合いが、高橋さんの作品にマッチします。「クラフト感が出過ぎないようにデザインを心がけています」と高橋さん。細部までつくり込まれているのに、外観はすっきりしていて、ステッチや編み込み、配色に大人の遊び心が感じられるデザインです。

工房での相棒はフレンチブルドッグの「こぶ」。愛犬用の革製小物にも注目ですよ。



Instagram



東京からの日帰りで参加していた浅原さん

東京生まれ東京育ちの浅原さん(旧姓:安藤さん)は元環境省の職員。当時の職員研修で村を訪れ、飯館村の大ファンになったそうです。何と、わざわざ村に住んで、福島地方環境事務所(福島市)に通勤をしていたと言うのですから本物です。しかし、「秋には日に日に進んでいく紅葉がきれいで」と当時を振り返るものの、何が「大ファン」の決め手かは、浅原さん自身もは

きり分からないのだそうです。理由のない「好き」ほど強い「好き」はないのかも知れません。

結婚を機に退職し、現在は東京都で暮らしていますが、震災から10年の節目には、高校生が福島県内で聞き書きと発信を行うプロジェクトに参加。さらには今後、再び村とつながり起業をしたいとアイデアを練っているそうです。

デイキャンプの開催を知り「日帰りできてしまった」と笑顔でパーベキューを楽しんでいます。



浅原みゆきさん

飯館村が大好きな東京都在住の浅原さんに出会いました。

Kawa-li.Lab

カワイイラボ



デイキャンプの運営をラボの仲間がサポート

スラーと、川俣町で地域づくりに携わる皆さんとで立ち上げた「カワイイラボ」。スラーが開催している料理教室「クックリング」での出会いをきっかけに、意気投合して結成しました。やりたいことを話し合った

Kawa(川俣のカワ)・li(飯館のイイ)・Labってネーミングも素敵。



それぞれ家族で参加していた子ども達が、初対面とは思えないほど仲よしに。



り、課題の解決に協力したり、つながりを深めています。川俣町の皆さんが、今回のデイキャンプでも、スタッフや出店者として活躍していました。

近くて異なる「よさ」を生かして生まれてくる「何か」が楽しいですね。これからもぜひ飯館村で、つながり合う楽しさを広げていってください。

あゆかわ農園



「あゆかわ農園」が栽培するもち麦「はねうまもち」。白米と一緒に炊いてもよし、ゆでてスープやサラダに加えてもよし。道の駅までい館でも購入できます(売り切れの場合は次回出荷をお待ちください)。



あゆかわ農園ホームページ

「まごころ」で利用者さんをサポートする鮎川さん自身も、会員の一人として、加工施設を活用しています。「あゆかわ農園」では、大麦の一種である「もち麦」を栽培しています。寒冷地用に開発された「はねうまもち」という品種で、鮎川さんは種子販売の資格も取得しています。鮎川さんは、精麦したもち

麦から、欠けた粒や変色した粒を丁寧に取り除き、品質のよいものを選別して販売。麦特有のにおいがなく、モチモチ食感が白米によく合うと評判です。飯館村の産品として育て上げたいと願いを込めて、「まごころの里もち麦」と名付けています。また、村が特産化を目指すもち米「あぶくまもち」を使った特産品づくりにも取り組んでいて、「おやき」や甘酒を開発中です。

飯館村の農地から新たな特産品を

ゆかり農園

「ゆかり農園」は、自家製野菜の販売からスタートしました。「農業はまったくの素人でした」と言う木幡さんですが、家族の応援もあり、自宅前に無人販売所を設けて販売を行うまでに、4年目の今年はさまざまな種類のイモやナス、カボチャなどを栽培し、道の駅のマルシェには、家族みんなで参加しました。また、「まごころ」でつくるプリンには、愛娘・秋花ちゃんが大好

娘が大好きなプリンを製造販売することに



木幡百香里さん

オレンジの方は卵の味が「濃いプリン」。道の駅までい館でも購入できます。

あえて材料はシンプルに。卵のおいしさが伝わる手づくりのプリン。

伊達産の新鮮な卵を使った固めのプリンは、液を3度濾す丁寧な工程で仕上げられています。そして、小さな子どものためにカラメルを入れないプリンも必ずつくっています。畑に子育てに忙しい毎日。秋花ちゃんが布団に入る時間からプリンづくりが始まることも少なくありません。「つくるのが好きなので苦になりません」と木幡さん。「まごころ」での挑戦を積み重ねる中で「自分の加工場をつくらう」という次の目標ができたそうです。

つながる!

飯館村で

つながることでアイデアが生まれたり、1人ではできなかった挑戦が始まったり。互いを尊重するつながりの中で、新しいモノ、新しいコミュニティが生まれています。お話をうかがうと、それぞれのエピソードには、助け合い、高め合いながら、挑戦を楽しむ皆さんの姿がありました。

共同利用の加工施設「まごころ」の活用が少しずつ進んでいます。



鮎川邦夫さん

NPO法人

もりの駅まごころ運営協議会

もりの駅まごころ

加工施設「もりの駅まごころ」は、「NPO法人もりの駅まごころ運営協議会」が村から業務委託を受けて管理・運営しています。令和5年10月現在の会員は35人。会員以外での利用も可能で、村民の利用は無料です。施設は、菓子製造業・めん製造業・そうざい製造業・漬物製造業の許可を取得しています。野菜の簡易加工は届け出のみで可能です。

加工施設「もりの駅まごころ」は、「NPO法人もりの駅まごころ運営協議会」が村から業務委託を受けて管理・運営しています。令和5年10月現在の会員は35人。会員以外での利用も可能で、村民の利用は無料です。施設は、菓子製造業・めん製造業・そうざい製造業・漬物製造業の許可を取得しています。野菜の簡易加工は届け出のみで可能です。

「もりの駅まごころ運営協議会」の代表を務める鮎川邦夫さん(小宮)。施設の活用例の広がりを歓迎しています。「ここで実績をつくり新たな加工施設の開業を目指す人もいます。特産品の開発拠点として、少しずつ形になってほしい」。また、「家庭ではできない加工をやってみる方にも気軽に利用してほしい」と新規の利用も呼びかけています。「機器の使い方などサポートします」。簡易加工をした野菜を大型冷凍庫で保管し、年間を通じて出荷することも可能だそう。まだまだアイデア次第で活用の幅が広がります。

特産品の開発拠点に加工施設「まごころ」

マーブリング
合同会社MARBLING
図図倉庫
ズットソーコ

1,000㎡の廃屋
を「環境づくりの
自由研究秘密基地」に改造中!

松本奈々さん

矢野 淳さん

図図倉庫

松本奈々さん(深谷)、矢野淳さん(佐須)の合同会社MARBLINGが、若い移住者、研究者、アーティスト、ボランティアと共に、全村避難以降使われなくなった旧コメリの建物を新たな交流拠点として再生するプロジェクトに取り組んでいます。シェアオフィス、トレーラーカフェをオープンした他、さまざまなイベントにも活用しています。



秘密基地づくりのサポーターを募り、11月末までクラウドファンディングを実施中。

めぐりあるきレストラン
ヒカリノトリ
—観測者たちの集い—

11月11日～26日(木・金・土・日曜日)
開場：午後4時 開演：午後4時30分
企画 合同会社MARBLING
演出 野宮有姫
料理 佐藤雄紀
(田舎レストランLaKasse)

※問い合わせ・予約は marbling.inc@gmail.com

**期間限定で開催
シアター&レストラン**
11月中旬から、図図倉庫にて、シアター&レストラン『ヒカリノトリ』を開催予定。西会津国際芸術村で活躍する野宮有姫さんが演出を手がけ、「アート」と「食」を通して、宇宙と地球と人との関係、環境世界を表現します。
各回10人限定で、完全予約制。料金は大人1万2000円(税別)です。

コチット
Cocitto



高橋洋介さん

**飯館村の食材と出会い
誕生した「ケーキ」**

飯館村ならではの食材にこだわった洋菓子ブランドが誕生しました。「いいたて村の道の駅までい館」に勤務する高橋洋介さんが、自宅を改装した工房で、ナツハゼ、夏秋イチゴ雷峰、いいたて雪つ娘カボチャを使った手作りのパウンドケーキを生産しています。

東京都で営業職の仕事をしていた高橋さん。学生時代に菓子工房でアルバイトをした経験があり、都内を飛び回る仕事をするようになってからは、さまざまな名店の菓子を食べ歩いてきたそう。そんな高橋さんが、実家のある川俣町にUターンし、道の駅で出会ったのが、飯館村の食材でした。周囲の人の「飯館らしい素敵なお土産があればなあ」という声を聞き、加工施設「まごころ」で、パウンドケーキの試作を始めました。ナツハゼはクリームチーズと、イチゴはピスタチオと。カボチャはクルミと。何十通りもの組み

合わせを試して、現在のレシピが完成。「修行をした訳ではないので」と謙遜する高橋さんですが、プロ向けのレシピブックで研究を重ね、さらなる商品開発にも挑んでいます。「この食材、こんなにおいしかったのかなと発見があるようなケーキをつくりたい。」

そしてもう一つ、高橋さんがブランド名に込めた大切な願いがあります。「コチット」は古語の「東風」と「苞」を組み合わせた造語です。東風は東から吹く風、苞は葉で包んだもの。この「土産」の意味があります。「コチット」は、食材の魅力や背景にある物語をぎゅつと詰め込んだ福島発の贈り物なのです。「いずれは首都圏へダイレクトに届けたい」とも考えています。今は「つくりて」に専念したい高橋さんは、図図倉庫に企画や広報を委託。松本奈々さん(深谷)、松尾洋輝さん(草野)らが中心となり、コチットの「ケーキ」としてブランディング。現在はイベントなどに来店しながら、ECサイトを準備中です。
※ECサイトオンラインショップ

出店ブースで使用
するクロスなどは
図図倉庫・松尾
さんがデザイン。



「いいたて結い農園」のエゴマの実やエゴマ油は、道の駅までい館で販売している他、ホームページからも注文できます。



いいたて結い農園
ホームページ



大きく育ったエゴマの刈り取り作業。この日の収穫作業には福島大学の学生が参加。収穫したエゴマは乾燥させてから実を外し、まていな手作業を経て商品化されます。

「つながる」農地は、里山の景色の美しさや、まていな農業の魅力も伝え続けています。

10月の刈り取り期には、移住モニターツアー「ミチシル旅」の参加者も体験に訪れて、作業の後は地区の皆さんと畑でバーベキュー。さらには交流のある大学からも学生達が駆けつけ、作業を手伝いました。

大久保・外内地区の皆さんが協働する『いいたて結い農園』。手塩にかけて安心・安全なエゴマの栽培を行っています。

この結い農園の農地は、エゴマの栽培を通して、いろいろな「つながり」も育んでいます。

今年はずべてのエゴマが「宇宙エゴマ」。宇宙を旅して帰還した飯館産のエゴマを、村の子ども達と播種して増やし、今年の苗は「宇宙エゴマ」から育てました。「このエゴマの物語を大切に育みたい」と話していた代表の長正増夫さん(大久保・外内)。「宇宙エゴマ」は農地いっばいに大きく育ちました。

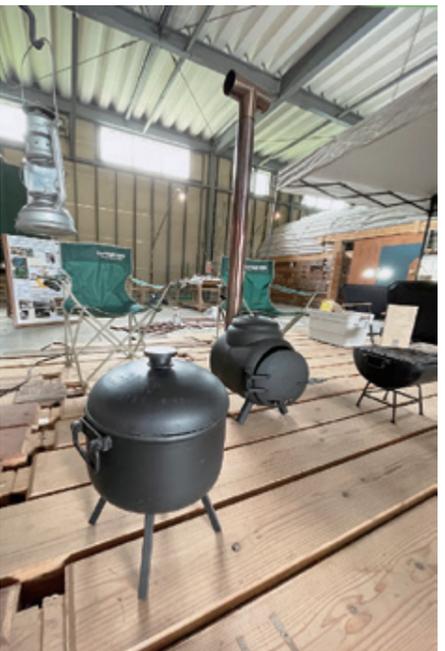
農地を訪れる人々と共に育む物語

一般社団法人

いいたて結い農園

結い農園

「いいたて結い農園」は、協働でエゴマを栽培し、その6次化にも取り組んでいます。手作業でまていに仕上げるエゴマの実の販売の他、エゴマ油も製造していて、注文販売では搾りたてを提供しています。また、高齢者がいきいきと働ける環境を整え、外部とも積極的に交流するなど、コミュニティ活動の拠点ともなっています。



「廃材は宝の山」と大島さん。下の写真のガスボンベもバーベキューコンロへのリメイクを依頼されています。



9月に図画倉庫で開催された「ずっとまーけっと」の一角。バーベキューコンロやストーブなどのアウトドアグッズ(左の写真)が注目を集めていました。使い勝手がよさそうなシンプルな作り。丸みのあるフォルムを生かしたデザインも目を引きまます。実はこれ、使用済みのガスボンベをリメイクした1点物。大島さん(関沢)が、切断・熔接・塗装をして製作しています。

大島さんは、南東北クボタ飯館営業所の所長さん。モノづくりはあくまでも趣味だそうですが、製作依頼が相次いだため、アウトドアグッズは受注販売を行うようになりました。

鉄製のインテリアグツズを販売している道の駅では、事務所のパソコンラックも製作しました。棚やベンチなどはサイズ指定の依頼も多いそう。

山田豊さんの精肉店「肉のゆーとぴあ」からは、肉を吊るすカギ(P14に写真)やカギを掛ける梁などの製作を依頼されました。大島さんの工房は只今名称を考案中ですが、山田さんからは「夢が叶う工房だね」と喜ばれたそうです。



大島 剛さん

大島剛さんのモノづくり



Instagram

元牛舎を改造した工房。スピーカーから音楽が流れています。熔接のコーナー、塗装の部屋などがあり、大島さんはここですべての工程をこなします。「こんなものがほしい」と訪ねて来る人と、あれこれ話す時間も楽しいそう。注文が集まり忙しそうですが、「ものづくりが好きだったので、いろいろやってみたくて」と楽しんでいる様子です。お問い合わせは☎090-6259-3392まで。



鉄材を加工して製作するインテリアグッズ。道の駅で販売中。



中央右のアロマキャンドルは工房マートルさんとの共同開発。



SHIRUBE × いたて結い農園

『SHIRUBE』は飯舘村を拠点にホーリーバジルを活用した商品開発を行うアロマブランド。安心・安全なエゴマの生産に取り組む『いたて結い農園』（P13で紹介）にホーリーバジルの栽培を委託し、畑の交流を続けています。今年は目標を上回る収穫量となる見込み。ホーリーバジルティーや貴重な精油を使ったルームミストに続く、新商品の開発も検討しています。



飯舘の花物語を秘めた詩情豊かなボタニカルキャンドルの数々。

工房マートル × 飯舘の花

『工房マートル』（上飯樋）のろうそく作家・大槻美友さんは、飯舘の花を取り入れたボタニカルキャンドルの他、さまざまなデザインの作品を生み出し、クラフト市への出店などで、村内外の「つくりて」「つなぎて」と交流しています。村でのワークショップやイベントへの協力も惜しみません。美しいキャンドルが、花を愛する人々の想いを、さまざまな場所へと運んでいます。



モノづくりに取り組む「つくりて」の皆さんの間にも、さまざまなつながりが生まれています。つくっているものを組み合わせさせて新しいモノが誕生したり、ニーズのあるところへ新しいアイデアが生まれたり、飯舘村で豊かにつながり始めた「つくりて」のエピソードをのぞいてみましょう。



村カフェ753 × 13区営農組合

大規模農業に取り組む『13区営農組合』の代表・細川強さん（上飯樋）が、昨年『村カフェ753』の田中久美子さん（深谷）の所へ大豆を持って訪れました。「13区でとれた大豆、何かに使ってくれないかな」。田中さんは「きな粉」にすることを提案。細川さんにも試食をもらいながら、きな粉のベーグル、きな粉の飴を開発しました。12月には今年の新きな粉が登場します。



村カフェ753のベーグル「いたてきな粉」。



レシピを開発した「きなこ飴」は自立研修所ビーンズ（南相馬市）に製造を委託。道の駅までい館で販売しています。

肉のゆーとぴあ × 百年杉

山田豊さん（関根・松塚）の精肉店「肉のゆーとぴあ」では、いろいろな方とのつながりを生かして、店内のアイテムを整えています。今回は、佐藤長平さん（宮内）の倉庫に保管されていた飯舘産の百年杉から、木工作家・米倉一磨さん（南相馬市）が肉をのせる杉板を試作。つながりを取り持った田中久美子さん（深谷）も駆け付けて、試作の完成を見届けていました。



佐藤さんの倉庫に眠っていた百年杉を活用しました。



P12で紹介した大島剛さん作のこだわりのアイテム。冷凍庫で枝肉を支えます。

10月の早朝、真野ダム(大倉地区)のダム湖「はやま湖」を訪れました。湖面にふんわりと揺れていた蒸気霧(湖沼霧)が、昇る太陽の光の中に消えていきます。例年よりかなり水位が下がっていて、露出した地面に広がった草紅葉が、朝陽に染まっています。ひんやりと澄んだ空気。楽しげな小鳥のさえずり。手前には小さな釣り舟も見えます。

土屋復興大臣・伊藤環境大臣が来庁

9月13日に発足した改造内閣に入閣した土屋復興大臣、伊藤環境大臣が村役場を訪れました。



10月12日、伊藤信太郎環境大臣(右から2人目)、滝沢求副大臣(左端)、国定勇人政務官(右端)が来庁。村より要望書を提出し、環境再生事業に対する理解の醸成、脱炭素の取り組みへの支援などを要望しました。杉岡村長は「住民のため、村の未来のための取り組みを、環境省と協働し広く発信していきたい」と述べ、大臣らと意見交換を行いました。



9月27日、土屋品子復興大臣(中央)、高木宏壽副大臣(右から2人目)、平木大作副大臣(右端)が来庁しました。杉岡村長は、復興庁のこれまでの支援に感謝を述べ、「村を選んで(住んで)もらえるよう、なりわいの再生に取り組み、魅力ある村づくりを進めたい」と伝えました。また、要望書を手渡し、個々の課題に寄り添う支援を要望し、意見を交わしました。

相馬農業高等学校飯館校 本校に統合

令和2年度から休校となっていた相馬農業高等学校飯館校が、9月15日、本校に統合されました。

福島県立相馬農業高等学校飯館校が、9月15日、本校(南相馬市)に統合されました。飯館校は、原発事故による全村避難に伴い福島市にサテライト校を開設して教育活動を継続しましたが、平成30年度には募集を停止、令和2年度からは休校となっていました。飯館校の歴史と伝統は、本校に集約され引き継がれていくことになります。

村では、飯館校の敷地を含む約11.1haのエリアに産業団地を整備する計画をしています。



住民懇談会を開催しました

10月に住民懇談会を開催しました。お忙しい中ご参加をいただいた皆様、ありがとうございました。



交流センター「ふれ愛館」



サンライフ南相馬

令和5年度住民懇談会は、交流センター「ふれ愛館」、福島県青少年会館(福島市)、サンライフ南相馬(南相馬市)を会場に計5回開催しました。村からは、各事業の進捗を報告した他、中間見直しを行っている第6次総合振興計画についても説明を行い、ご意見をいただきました。また参加者の皆様からは、事業への質問や課題の提示、提案など、さまざまな発言をいただき、情報共有を図ることができました。

令和5年度 飯館村表彰式

10月6日、令和5年度飯館村表彰式を交流センター「ふれ愛館」で挙行了しました。式では6人の方の功績を讃えて表彰状と記章を授与し、来賓の皆様のご臨席のもと、長年にわたるご尽力に感謝を伝えました。村は、飯館村表彰条例に基づき、村の伸展に貢献された方を表彰しています。また表彰式は9月30日の「村民の日」に近い日程で実施しています。



功労表彰
大渡 正子さん
(草野)
飯館村民生委員・児童委員15年



功労表彰
嶋原 良友さん
(長泥)
飯館村第15行政区長10年
飯館村民生委員・児童委員6年



特別功労表彰
多田 宏さん
(宮内)
保護司41年
飯館村文化財保護審議委員22年
人権擁護委員18年
飯館村教育委員6年



功労表彰
濱野 正之さん
(伊丹沢)
飯館村消防団員33年



功労表彰
目黒 欣兒さん
(大久保・外内)
飯館村消防団員37年



功労表彰
伊東 勇一さん
(関沢)
飯館村消防団員40年

狼信仰を学ぶバスツアー

9月26日に『飯館村の狼信仰を学ぶバスツアー』を実施。村田町歴史みらい館(宮城県村田町)を訪れ、石黒伸一郎館長(村文化財保護審議委員)の丁寧な解説で、企画展「牙を剥け-東北地方の狼信仰-」を観覧しました。また、昼食後は村に戻り、山津見神社を見学。地元・佐須地区の方などからも話を聞き、本村にゆかりが深い狼信仰を学ぶと共に、参加者同士が交流を深めました。



「いいたてキャンプ」自然に触れ、楽しく交流



(左)火起こしから楽しむバーベキュー。(上)キャンドルづくり体験で交流。

9月30日から10月1日、あいの沢オートキャンプ場、「民家園ふるさと」で、いいたてスポーツクラブ・飯館村公民館などが主催する『いいたてキャンプ』を行いました。1日目はテント設営後、散策して植物の多様性を学び、夕食のバーベキューで飯館産牛肉を試食。2日目は木の芯を使ったキャンドルづくり体験を行いました。参加者の多くがキャンプ初心者でしたが親睦を深めるキャンプとなりました。

お菓子なキャンドル作り教室

10月3日、『お菓子なキャンドル作り教室』を開催しました。講師は工房マートルの大槻美友さん(草野)。教室では、キャンドルの原料や製作工程について学び、マカロン、クッキーなどを模したキャンドルづくりを行いました。参加者は、丁寧なアドバイスを受けながら一つひとつの作業を進め、お菓子そっくりなキャンドルが完成しました。

ろうそく作家として活躍する講師の大槻さん▶



軟式テニス教室

10月7日、「いいたてスポーツ公園」の屋内運動場で、『軟式テニス教室』を開催しました。講師は村役場テニスクラブのメンバーが務めました。ストローク、ボレー、スマッシュ、サーブなどの基本の打ち方は、フォームを確認しながら丁寧に練習。基礎練習後はダブルスを組んで、試合形式でゲームも楽しみました。



学園NEWS!

いいたて希望の里学園 力を合わせて稲刈り体験

イネは
い〜ね〜

10月5日、いいたて希望の里学園前期課程の児童が森永正男さん(前田・八和木)の水田へ。5月に田植えをした水田での稲刈り体験です。田植えに続き地域ボランティアの皆さんが、子ども達と一緒に田んぼに入り、作業のコツを教えてくださいました。

力を合わせて稲刈りとはせがけをやり遂げた児童は、ボランティアの皆さんに感謝を伝え、「農家の皆さんのおかげで上手にできました」「またやりたいです」「稲はい〜ね〜」と感想を発表しました。はせがけで天日干しをした米は、給食で味わう予定です。



前日の雨でぬかるんだ地面に足を取られながらも、最後まで丁寧に、稲刈り、はせがけを頑張りました。

こども園NEWS!

までいの里のこども園 笑顔あふれる運動発表会

10月7日、までいの里のこども園の運動発表会『「できた!」がいっぱい はっぴょうかい』を、いいたて希望の里学園第2体育館で開催しました。発表会では、子ども達ができるようになった運動やリズムダンスの数々を、お家の方に観ていただきました。また親子競技では楽しい触れ合いの時間を過ごし、保護者の方々は子どもの成長に感動いっぱいの様子でした。



(上)リングのバトンをつないで「そら組」のリレー。
(右)「ジャングルぐるぐる」全園児が保護者とダンス!



までいの里のこども園 サツマイモ掘り

立派に
育ったね!

10月18日、までいの里のこども園の3歳以上の園児達が、サツマイモの収穫を行いました。6月、「大きなあれ」と丁寧に植えた苗はすくすくと成長しました。今年は動物から畑を守るための対策を行ったことで、昨年よりもツルが長く伸び、土の中にはサツマイモが立派に育っていました。園児達は小さな手を泥まみれにしながら、お友達と協力して土を深く掘り、顔よりも大きなサツマイモやかわいいサツマイモなど、たくさん収穫することができました。0・1・2歳児も畑に集まり、収穫の様子を近くで応援していました。



大きなサツマイモを一生懸命収穫し、「とったぞ!」「大きい!」とうれしそうに、笑顔で掲げる子ども達。

市町村対抗ソフトボール大会 飯館村チーム初戦の結果は…



試合後に見せた柔らかな表情の集合写真から、チームの雰囲気の良い良さが伝わりますね。選手大募集中!

10月14日、『第10回市町村対抗福島県ソフトボール大会』の1回戦に、飯館村チームが登場。相馬光陽ソフトボール場(相馬市)で、埴町チームと対戦しました。

飯館村チームの先攻で試合が始まり、1回表に幸先よく1点を先制。その後は守備での好プレーも随所に見られ、さらに2点を追加しましたが、相手チームの強力打線を止めることができず3対11となり、大会規定により5回コールドで敗れました。

選手たちは終始笑顔で、声を掛け合いながら、最後まで諦めずに楽しく試合に臨んでいました。

飯館村消防団退職者へ 報奨金と感謝状を交付



感謝状を手に記念撮影に臨む高野さん(前列左から2人目)、伊東さん(同中央)、濱野さん(同右から2人目)。

9月26日、交流センター「ふれ愛館」にて、『飯館村消防団退職報奨金及び退職者感謝状交付式』を行いました。この報奨金は消防団員として5年以上勤務し退職した方に支給されるもので、今回は令和3年度と4年度の退職者33人に交付されました。式には元本部副分団長で勤続33年の濱野正之さん(伊丹沢)、元第一分団副分団長で勤続40年の伊東勇一さん(関沢)、元第二分団第五部部长で勤続27年の高野和幸さん(長泥)が出席。村長が長年のご尽力に感謝を伝え、一人ひとりに感謝状を贈りました。

村を守り続ける 飯館村消防団秋季検閲式



検閲官を務めた杉岡村長は「規律訓練を通して、防火・消防活動に努めてください」と激励しました。

10月15日、『令和5年飯館村消防団秋季検閲式』が行われました。当日は悪天候のため、いいたて希望の里学園の体育館で実施されました。式には、村消防団員74人、役場消防隊11人の計85人が参加しました。

式では、来賓を前に検閲の通常点検が行われた後、団員の表彰が行われました。表彰では、福島県消防表彰の永年勤続章が4人、福島県消防協会定例表彰の功績章が1人、精勤章が4人と、長年の活動に貢献された計9人の団員が受章し、これまでの活動に敬意を表して賞状も授与されました。

飯館村最長記録達成! 無火災500日



左から横山分署長、今野隊長、杉岡村長、赤石澤団長。(右上)役場正面玄関に貼られた記録達成の垂れ幕。

10月11日、村消防団の赤石澤傳団長(飯樋町)、村女性消防隊の今野スイ子隊長(蕨平)、消防飯館分署の横山義幸分署長が役場を訪れ、無火災500日を達成したことを杉岡村長に報告しました。令和4年5月から村内での火災が発生しておらず、今年の10月8日に連続無火災日数500日を達成しました。

この記録は、平成28年12月に達成した491日を超え、村の最長記録となりました。横山分署長は「今後も関係機関との連携を密にし、この記録を更新していきたい」と意気込みを述べました。

シルバー人材センターが 役場前庭で奉仕作業



「シルバー会員募集中!」ののぼりを立て、前庭の草刈りや落ち葉の片付けを、までに行いました。

10月19日、『そうま広域シルバー人材センター飯館支部』(渡邊富士男支部長/飯樋町)が、村役場で奉仕活動を行っていただきました。

この奉仕活動は、同支部が、毎年この時期に続けている美化活動で、役場の前庭の除草や清掃を丁寧に行っていただきました。活動後、参加者の皆さんと懇談した高橋副村長は、「60歳を過ぎても現役の、元気な皆さんに、今後もぜひ活躍いただきたい」と述べ、地域のために力を尽くす活動に改めて感謝を伝えました。

防犯パトロールを通して 犯罪被害防止を呼びかけ



道の駅までい館の入り口で、訪れた人に啓発グッズを手渡し、なりすまし詐欺の被害対策を呼びかけました。

10月12日、犯罪の被害に合わないよう呼びかけを行う防犯キャンペーンが行われました。キャンペーンには、南相馬警察署の本多文彦署長、同生活安全課、南相馬地区防犯指導隊飯館支部隊(渡邊富士男隊長/飯樋町)、さらにはボランティアの皆さんが参加。道の駅までい館と村内の金融機関に分かれて、啓発チラシやグッズを配布しました。また、南相馬地区防犯協会連合会で副会長を務める杉岡村長もこのキャンペーンに参加し、日頃の防犯活動に感謝を伝え、呼びかけを共に行いました。

道の駅で
ワクワク!

いいたて村の道の駅までい館でのできごとを4つ続けて紹介します!



マルシェに参加した生産者の会の皆さん

までいなマルシェ

10月8日、道の駅生産者の会が『第1回までいなマルシェ』を開催。テントや軽トラックがイベント広場にずらりと並び、生産者が対面で、新鮮野菜や加工食品、手工芸品などを販売。来場者もまでいな産品との出会いをゆつたりと楽しんでいました。



はたらくクルマ大集合!

10月7日、『第2回はたらくクルマ大集合!』が開催されました。車両の展示には、地元企業や南相馬警察署・消防飯館分署が協力。親子連れが乗車体験や写真撮影などを楽しみました。株式会社東栄の協賛で子ども達にはソフトクリームなどをプレゼントしました。



渡邊富士男さんエイジレス章を受章

内閣府からエイジレス章を贈られた渡邊富士男さん(飯樋町)が、10月20日、受章報告に来庁しました。内閣府が提唱する「年齢にとらわれず生き生きと生活を送る」エイジレス・ライフの模範としての受章。方言集『「ほっと…」と「うそんこ」』の執筆・出版が評価を受けました。渡邊さんは「方言集の出版は自分の行動が広がるきっかけになった。飯館の方言には自然への感謝が垣間見える。後世に残していきたい」とさらなる意欲を語りました。



とみじいのダリア園が満開に

「とみじい」の愛称で親しまれる三浦富二さん(深谷)のダリア園が、10月に満開を迎えました。このダリア園は、村ににぎわいをもたらす花の名所をつくらうと、三浦さんが昨年オープンしました。約85aの敷地に200種1700株のダリアを植え、家族で手入れを続けています。今年も夏から秋にかけて、多くの人を楽しませました。色も形も大きさもさまざまな美しいダリアの花畑が、すっきりと晴れた青空に映え、見渡す限りに続いていました。



「いいたて秋まつり」を開催

10月22日はイベント広場で、飯館村商工会主催の「いいたて秋まつり」を開催。会場には飲食や物販、ワークショップのブースが並びました。当日は晴天に恵まれ、「いいたて愛」のヨサコイ、「飯館フラクラブ」のフラ、シンガーソングライター・つじむらゆみこさんのライブなどがステージを彩りました。また、人気アニメ「アンパンマン」のキャラクターショーや、特設の大型遊具には多くの家族連れが訪れ、秋の1日をのびのびと楽しんでいました。



飯館産黒毛和牛精肉販売会

10月19日には『飯館産黒毛和牛精肉販売会』を開催しました。販売したのは佐藤一郎さん(大倉)が手塩にかけた肥育牛です。和牛のせりでA5等級の評価を受けた牛肉で、販売会は、開店前から50人ほどが列をつくり、にぎわいました。売り場にはサーロインやカルビ、リブロースなどのパックが並び、お目当ての牛肉を手にした人は「並んだかいがあったね」「今夜、楽しめます」と笑顔を見せ、今年の2倍用意された約200パックが売り切れしました。



はつかいちサンブレイズ野球教室

10月15日、株式会社ダイサン(前田・八和木/本社:広島県)の主催で、女子硬式野球の企業チーム「はつかいちサンブレイズ」による野球教室が開催されました。同チームで女子野球界を牽引する監督・選手に加え、特別ゲストとして元ヤクルトスワローズの館山昌平氏、元東北楽天ゴールデンイーグルスの福井優也氏が登場。参加した福島・会津・いわきのリトルシニアチームに所属する球児達に、野球の技術と楽しさを伝えました。



飯樋町パークゴルフ交流大会

10月22日、飯樋町行政区でパークゴルフ大会が開催されました。区内の前山公園内に整備されているパークゴルフ場に、30人を超える住民が集まり、8チームに分かれ、秋晴れの空の下、和気あいあいとプレーしました。大会後には交流会を開催し、久々に顔を合わせた参加者が、楽しい時間を過ごしました。



地域活動支援センター「なのはな」 高橋廣美さん(深谷)考案の愛称に決定!

10月にオープンした地域活動支援センターの愛称が「なのはな」に決定しました。公募した名称の候補から利用者の皆さんが選びました。センターは火・木曜日に開いていて、皆さんが笑顔で活動を楽しんでいます。



笑いが絶えない温かな雰囲気。愛称の看板を制作中。

問 飯館村社会福祉協議会 ☎0244-42-1021

飯館村議会 議長・副議長を選出

10月13日の臨時議会において、前佐藤一郎議長、前高橋孝雄副議長が辞任。議員相互の投票により、新議長に高橋孝雄議員、新副議長に佐藤健太議員が選出されました。



佐藤健太副議長



高橋孝雄議長

問 飯館村議会事務局 ☎0244-42-1628

10月の村の動きと主なできごと

- 1日 住民懇談会(交流センター「ふれ愛館」)
- 八木沢 芦原行政区農地中間管理事業説明会(八木沢芦原多目的集会所)
- 福島圏域移住推進協議会 婚活バスツアー(川俣町/宿泊体験館きこり)
- 飯館村地域活動支援センター開所式(サポーターセンターつなご) (つなご)
- 文化祭実行委員会(交流センター「ふれ愛館」)
- 生涯学習講座「お菓子なキャンダル作り教室」(交流センター「ふれ愛館」)
- 福島県立医科大学保健科学部実習(いちばん館)
- 福島県立医科大学保健科学部実習(いちばん館)
- 岩田和親原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣) 来庁(村役場)
- 令和5年度飯館村表彰式(交流センター「ふれ愛館」)
- までのりのこと園 運動発表会(までのりのこと園)
- 住民懇談会(福島市・福島県青少年会館/交流センター「ふれ愛館」)
- 軟式テニス教室(いたてスポーツ公園)
- 半田山自然公園ウォーキング交流会(雨天中止)
- 福島県立医科大学保健科学部 実習(いたてホーム)
- 飯館村防犯指導隊 防犯キャンペーン(いたて村の道の駅までい館・村内各所)
- 飯館村議会第7回臨時会(議場)
- つなごのミチシルベ第2弾(大久保・外内地区他)
- 住民懇談会(南相馬市・サンライフ南相馬)
- 第10回市町村対抗福島県ソフトボール大会 対塙町戦(相馬市・相馬光陽ソフトボール場)
- 飯館村消防団 秋季検閲式(いたて希望の里学園体育館)
- 長泥地区植樹祭(長泥地区)
- 関沢地区農地中間管理事業調印式(関沢ふれあいハウス)
- 大久保・外内地区農地中間管理事業調印式(大久保・外内集会所)
- いたて村文化祭 総合文化展(交流センター「ふれ愛館」)
- 飯館産黒毛和牛精肉販売会(いたて村の道の駅までい館)
- 農業委員会定例会(村役場)
- 新型コロナワクチン集団接種(いちばん館)
- 第40回いたて村文化祭(交流センター「ふれ愛館」)
- いたて秋まつり(いたて村の道の駅までい館)
- 第6回福祉チャリティー祭り(交流センター「ふれ愛館」)
- 定例教育委員会(村役場)
- あぶくまロマンチック街道構想推進協議会R399道路景観向上活動(長泥地区)
- 乳幼児健診(いちばん館)
- はじめてのミチシルベ第3弾(いたて希望の里学園他)
- いたてつなご発表会「赤蜻祭」(いたて希望の里学園体育館)
- 虫歯0の子表彰式(飯館村子育て支援センター)
- 日本で最も美しい村まつり2023 in TOKYO TORCH(東京駅日本橋口前)
- 家族介護者交流のつどい(伊達市・りょうぜん紅彩館)

ふくしま駅伝 飯館村チームを応援しよう!

ふるさとのタスキをつなぐ選手の走りに大きな声援を送りましょう!

『ふくしま駅伝』(第35回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会)が11月19日に開催されます。飯館村チームは、今年も単独チームでの出場を目指し、佐藤彰洋監督(二枚橋・須萱)のもとチームづくりを行っています。火・金曜日には、いたてスポーツ公園でチーム練習を行い、一人ひとりが走力を上げるために努力を重ねています。いたて希望の里学園の生徒、先生方も一丸となって取り組んでいます。



部活動の時間や退勤後に練習を続けています。

第35回 ふくしま駅伝
(市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会)

11月19日(日)午前7時40分スタート!

しらかわカタルスポーツパーク(白河市総合運動公園)陸上競技場を午前7時40分にスタートし、16区間でタスキをつなぎ、福島県庁前のゴールを目指します。総延長95.0km。ふるさとの声援を胸に、選手が晩秋の福島路を駆け抜けます。

長泥復興組合が「第2回長泥植樹祭」を開催しました



15日は予報通りの雨に。前日にも作業をした地区の皆さんが雨でも植樹ができるよう準備をしていました。



地区の皆さん、ボランティア参加の皆さん、長泥で事業を行う関連機関や企業の方、学生などが交流。



福島大学大黒ゼミの学生が『村民食堂』を特別開催。地区の皆さんと同じ想いでおもてなしをしようと豚汁やおこわなどの昼食やデザートを用意しました。

長泥に想いを寄せて

10月14日と15日の2日間にわたり、長泥復興組合が『第2回長泥植樹祭』(鳴原清三実行委員長)を開催。今年5月に開所した「長泥コミュニティセンター」の周辺にサルスベリとシダレザクラの苗木、90本を植樹しました。

15日には、多数のボランティアが集い、植樹の後に交流会も開かれました。震災当時から地区と交流する外部の方や他の行政区の村民、福島大学・慶應大学・青森大学などの学生、長泥で事業を行う環境省やイタテバイオテック株式会社の職員などが一堂に。それぞれが長泥との関わりを語る場面もあり、互いに耳を傾け、長泥への想いを分かち合いました。

飯館村の誕生

合併の軌跡

歴史の散歩道

飯館村と大館村が合併し、飯館村が成立したのは昭和31年9月30日です。この日は時限立法「町村合併促進法」有効期限の最終日。期限ぎりぎりの駆け込み合併でした。

第二次世界大戦後、民主化が進む中で地方自治は確立されていきました。地方自治法が昭和22年に施行され、地方自治体は法的な裏付けを得ましたが、多くの町村は財政基盤が脆弱で、程なく財政面で行き詰まりました。状況を受け、国と地方の行政事務の再配分や、地方自治体の規模の適正化が議論され、昭和28年、前出の「町村合併促進法」が3年間の時限立法で施行されたのです。

さらに時をさかのぼります。町村制が施行された明治22年、現飯館村を構成する18村が、合併により「大須村」「新館村」「飯曾村」「石

橋村」の4村になりました。昭和17年には飯館村が石橋村を編入。大須村と新館村が合併して大館村となり、飯館村成立直前の2村が形づくられました。なお、明治22年以前に存在した18村の名称は、現在の地名にも残っています（下図参照。芦股村は菅原）。

飯館村の村名は、飯館村と大館村の一字ずつを取った合成地名ですが、合併協議会では、自村名に固執する人が両村にあった他、新村名の提案も26案にのぼり、決定に時間を要しました。また、最も協議が難航した役場の場所は、草野地区に本庁、飯樋地区に支所を置く案で決着しました。

期限が迫る中、昭和31年9月19日に両村議会で議決に至り、同30日に飯館村が誕生しました。



昭和35年に完成した本庁舎。現在の飯館村商工会館及び教員住宅が建っている場所でした。



現在の飯館村を構成する旧18村。昭和17年に、■が旧大館村、■が旧飯館村に合併。（飯館村史第1巻「通史」の地図を流用）

子どもが生まれてからの一生をやさしい言葉と絵で描く母親と娘の物語。親の立場になった時、子を想い、見守り、成長していく背中をそっと押ししていく。常に一緒だった子は、やがて自分の足で歩き、巣立っていく。読めば心がほっと温かくなり、やさしい気持ちになります。また、子どもの立場になって読めば、自分が周りの家族にどれだけ大切に想われ、育ててもらったかを気付ける1冊となっています。

他にも、「ぶららん」や「かぜビューン」「こんもりくん」などの楽しい絵本も購入しました。ぜひ交流センターに絵本を借りに来てください。



アリスン・マギー 文
ピーター・レイノルズ 絵
ながわちひろ 訳
主婦の友社 発行

「ちいさなあなたへ」

おすすめ図書を紹介します

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

いいたて イノサル通信

伊丹沢モデル事業報告2 ～柵による防除試験の結果～

広報いいたて9月号で、ニホンザルの被害が出ている農地で行う防除試験について紹介しました。この防除試験では、地域の方々と協力し、サルが侵入できないよう、設置されている柵の改善を行いました。また、改善の効果を調べるため、動物が来たら分かるよう、自動撮影カメラを設置しました。今回は、その結果を報告します。

柵の改善

- ▶ 乗り越えられることを防ぐため、電線の間隔を修正。(ワイヤーメッシュ柵上部から1段目は5cm、2段目と3段目は10cm間隔)
- ▶ 飛び込みを防ぐため、建物や電柱などから柵を3m以上離す。

これで侵入が防げる!と思ったのですが、残念ながら、侵入されてしまいました。しかし、自動撮影カメラにより、いくつかのことが分かりました。

わかったこと

- ▶ 電気柵(柵の上部)を乗り越えようとするサルは少ない。
- ▶ 乗り越えようとしても、電気柵線の間隔が正しく、電圧等に問題なければ防げる。
- ▶ 目の粗い柵は、補修が必要。

侵入された箇所を現地で確認したところ、柵の目が粗くなっていたため、再び入れられないよう補修しました。

周辺の地形や柵の構造は、それぞれの農地で違うため、予想外の原因で侵入されてしまうことがあります。しっかり観察し、農地に合わせて改善することで、被害を防げる柵にしましょう。



サルが侵入できた箇所。(タテ約12cm、ヨコ約20cm、はがき2枚分弱)

侵入の原因が分からない場合など、避難地域鳥獣対策支援員にご相談ください。

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する鉄谷さんからののお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

鉄谷 龍之 さん

平成31年4月から同支援員。令和3年から飯館村の鳥獣対策に携わり、今年度から村の主担当。専門は野生動物管理・鳥獣被害防除。

自動撮影

カメラは見た! おさるの侵入



ワイヤーメッシュを登らず、もぐり込める場所を探す。



電気柵部分からの侵入を試みる。



感電して飛び降りる。



ワイヤーメッシュの目が粗い箇所を見つける。

ふるさとの将来を見つめ
力を合わせていきましょう



第15回

秋深く、厳しい寒さの足音が聞こえています。来年はフランスで村の産品が振舞われるかも知れません。そんなワクワクをお楽しみいただくためにも、酷暑の疲れを癒しながらのご自愛の日々をお過ごしください。

天高く馬肥ゆる秋。酷暑の夏を乗り越えた村に、実りの秋がやってきました。10月1日から14日までの住民懇談会では、「村民の今を支える」取り組み、「村の将来への布石」たる取り組みについて、「ふるさと」に向けた温かいお気持ちや忌憚のない意見をいただき、ご出席の皆さまとお顔を合わせながらの対話をさせていただきました。

特に、村の第6次総合振興計画の中間見直しを踏まえた「後期計画」において、村としては初めて、自然減少のみを考慮した場合の「村内外」の将来人口の『予測値』をお示しし、だからこそ、今まさに取り組むべき「人口増加策」として、「村内のなりわい人口を増加させること」「村内外の村民人口（住基人口）の減少スピードを緩やかにすること」について、数値目標を明示致しました。村のホームページなどでも公表しておりますので、ぜひ一読いただき、ご意見いただければ幸いです。

15日に行われた「長泥植樹祭」には住民の皆さまに加え50人近い大学生が集い、とても賑やかで朗らかな植樹祭となりました。地元の方々のふるさとに対する熱い想いと、こうした多くの眼差しによって地域が支えられている姿に、胸が熱くなります。

22日には、少しひんやりした秋空の下、天候にも恵まれ、文化祭や秋まつりなどワクワクするイベントが開催されました。多くの方のご尽力、ご協力により、沢山の方に「来場いただきましたこと、心より御礼申し上げます。」

村長に就任して3年が経過しました。特に、村の人口、行政サービスに直結する「生業（なりわい）」づくりに邁進する中で、農林畜産業・商工業の振興とともに、過去にはないスピードで進めて来た「企業誘致」なども実現の形になってきました。ふるさとと資源を見出し、磨き上げ、活かす「ふるさと」の担い手「お一人おひとりの営みも飛躍してきています。お一人おひとりが主体的に輝く「今」を構築していくために、今後とも将来への布石を投じて参ります。

協力隊の横山です、先日、村民の森あいの沢「宿泊体験館きこり」で行われた『食と歌とマジックで、笑顔あふれる飯館の創造』に参加してきました！

第1部の『飯館村産の牛肉と野菜を使った創作料理教室 Part IV』は、シェフを呼んでの本格料理教室。私は今回が初めての参加となりましたが、各グループに分かれて分担作業。

私は飯館のかぼちゃやナツハゼを使ったパフェ担当でした。できた料理はどれも絶品！紙皿にワンプレートでしたが、それでも美しく、一つ一つお皿に乗せたらまるで高級レストランのコース料理でした。

今回デザートを担当させて頂いたので、自分のコーヒー屋での商品開発につながるヒントが沢山ありました。

あんなに大勢を集めての企画って本当に大変ですよ…主催した菅野クニさん（いいたての宝さがしをしよう会代表）のパワーは本当にすごい！教室の後はマジックショーにトランペットのコンサートでとっても充実した1日でした。参加された皆様お疲れ様でした。



今月のライター
地域おこし協力隊 横山 梨沙さん

ひとのうごき

おくやみ

氏名	年齢	行政区
小久保 直樹 さん	73	八木沢・芦原
佐藤 常子 さん	89	草野
柴田 絹子 さん	74	上飯樋
石井 辰清 さん	87	白石
細杉 朝雄 さん	72	前田
齋藤 キヨイ さん	77	前田・八和木
菅野 キイ子 さん	79	深谷



ひとのうごき 令和5年9月30日現在

人口	今月（前月比）	9月1日～30日までの人口動態
●男	2,377人（-4）	転入 6人
●女	2,354人（+1）	転出 2人
計	4,731人（-3）	出生 1人
世帯数	1,822戸（+1）	死亡 8人
		（住民基本台帳人口）

ご冥福をお祈り申し上げます
(9月21日から10月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

村民広報委員
ふじおさんの
いいたて 宝さがし

第16回 農業に誇りを持って！



秋の夕方、高橋章さん夫妻（上飯樋）を福島市の下鳥渡に訪ねた時、大きな米の乾燥機が3台も稼働している最中でした。他にも色々な農機具が所狭しと並んでいて、倉庫には何十俵もの出荷を待つお米が整然と並べられていました。昔ながらの飯館村の農家の風景のようでした。

聞いてみると稲作は8町歩（約8ha）ほど、夏にはトマトを2反歩（約20a）ほど作っていて、収穫時は5月から10月くらいまで。とても忙しくして、奥さんの盟子さんには大変苦勞をかけていると、少し小さな声で言っていたのが今回の宝話かなと思いました。

章さんは、自分では「亭主関白」だと言っていたのですが、写真を撮る時になるとやっぱりそうではないと感じてしまいました。

若い頃は、ダムや河川の水門工事の設置、修理などの特殊仕事をしていた、東北や関東の方までも出かけていたそうです。趣味も多く、三輪車にも乗り、キャンピングカーでも仲間たちと一緒に日本全国を旅し、出かけた先々でのハプニングも色々あったと聞きました。子どもは5人。今は農業に誇りをもって仕事をしていると話してくれました。

入札結果はHPで 広報紙上で公表してきた入札結果は、令和4年度分から、ホームページに掲載しています。





10月下旬の練習日、旧白石小学校にて。指導の林成子先生、ピアニストの安倍佳奈子先生と。

『いたて織里音』

混声合唱団

「喜びの一步」を歌い上げよう

初開催のコンサートに向けて

さまざまなイベントにも出演し演奏の機会を大切にしています。写真は飯館ライオンズクラブの式典に出演した際の1枚。



『いたて織里音』は令和2年に発足した混声合唱団。前身の「飯館お母さんコーラス」に、男声パートの4人を含む若い世代が加入し、新たなハーモニーを紡いでいます。練習日は隔週の土曜日で、本格的な合唱曲、ポップス、唱歌など、幅広いジャンルの楽曲を練習しています。発足当初からコロナ禍の影響を受け発表の機会が失われていましたが、この秋いよいよ初めてのコンサートを開催します。本番が近づく中、平日の夜にも集まれるメンバーで自主練習を重ねるなど、想いを一つに、よりよい演奏を目指しています。会長の佐藤将樹さん(関根・松塚)は「コンサートでは、飯館村でこんな風に楽しく頑張っていることも皆さんに伝えたいですね」と願っています。ふるさとへの想いをのせてコンサート開幕を心待ちにしてください。

喜びの一步

いたて織里音 復興ふれあいコンサート

11月19日 日 開場 正午 開演 午後0時30分
交流センター「ふれ愛館」 入場無料

『いたて織里音』としての単独コンサートは初開催。混声合唱で「大地讃頌」「群青」「糸」などを演奏します。また、支援と交流をいただいていた奈良県の『楽しく！コーラス』、オカリナグループ『ライリッシュ・オカリナトゥインクル飯館』が賛助出演します。

飯館村で生まれた新たなつながりが、着実に、村の魅力創出につながっていることを感じました。そうしたつながりの中で生まれた優しさを表すかのように、村の木々もあたたかい色に変化してきたな、とつい感じてしまいます。寒い季節もあたたかい心でやわらぐといいなあ。(菅野)

飯館村で生まれている新しい「つながり」。つながるからこそできることがあって、その広がりや皆さんが楽しんでいる様子にとぎめきました。それぞれにやりたいことがあり、共感をもって、やさしくつながりあえる、心の自由も感じました。ここからつながる未来にも、わくわくしちやいますね。(星)

〈編集後記〉

LINE 飯館村公式アカウント

お友達登録 待ってるね

村からのお知らせなどがすぐ分かる

お友達登録はこちらから↑